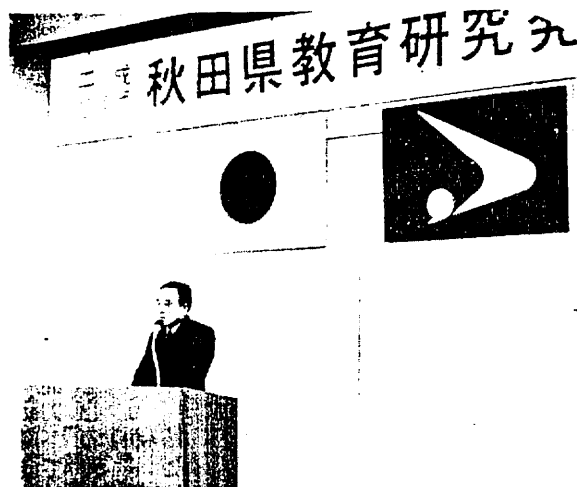


教育センターだより

第5回秋田県教育研究発表会特集

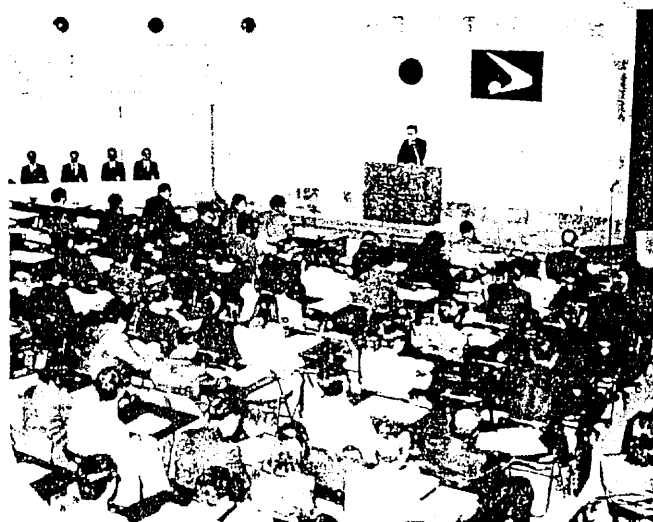
当教育センターは、第5回秋田県教育研究発表会を、2月14日、15日の両日にわたって、県生涯学習センターで開催した。参加者は約700名だった。14日午後1時からの開会式における当教育センター藤田所長の挨拶に始まり、学校運営、教科指導、道徳、特活、生徒指導、情報教育、幼児教育、特殊教育等の8領域で58件の発表があった。また、15日には兵庫教育大学長上寺久雄氏の「これからの教師に期待するもの」と題した記念講演で、教育道をユーマアを交えて説き、聴衆に感銘を与えた。



挨拶する藤田所長

2/14	12:30	開 会 式	分 野 別 分 科 会	16:00
	13:00 13:20			

2/15	9:20	分 野 別 分 科 会	記 念 講 演	15:00
	13:30			



開 会 式

所長挨拶（要旨） 全県の幼・小・中・高、特殊教育の教育に携わる先生たちを一堂に集めて、ここに58件に上る研究発表、記念講演を内容とした秋田県教育研究発表会を開催することは誠に喜ばしいことである。教師という職業の専門性については今さら言うまでもないが、今日ほどその専門性が社会的要請として強く浮かび上がった時代はかつてなかった。その意味においても今回の数々の研究発表の成果が今後の教育実践に生かされていくことを祈念し、挨拶に代える。

も く じ

- ・第5回秋田県教育研究発表会挨拶、日程等……………1
- ・記念講演「これからの教師に期待するもの」…2・3
- ・秋田県教育研究発表会「参加者の声」……………4
- ・全教連全国集会から(個性化教育と評価)……………5
- ・相談室日記……………6
- ・秋田県教育風土記六(算数・数学科の巻 その3)……7
- ・平成3年度研修講座及び刊行案内等……………8

・ 第 50 号 ・

平成3年3月13日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号
☎ (0188) 32-3594

●公開講演シリーズ(その8)● これからの教師に期待するもの

兵庫教育大学長 上寺久雄

☆教育についてさまざまな提言がなされ、現在はその精神を生☆
☆かした実践がさまざまに試みられているところである。上寺先☆
☆生は、その状況において教育のあるべき不易のすがたを分か☆
☆り易く提示していただくことだ。』では、その要旨を紹介する。☆

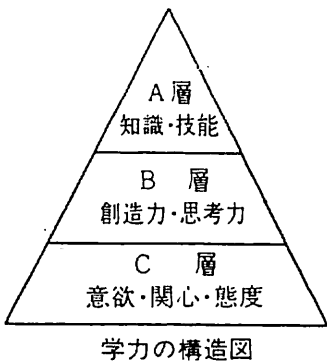
これからの教師に期待するもの

今、高校以下の日本の教育は外国から高く評価されています。海部首相はメキシコの大統領に「教師の資質の良い国、教育制度で成功している国を見たかったら、日本へどうぞ」と胸を張って言われたそうです。日本の教師は一斉指導は出来るし、青少年の識字能力も一〇〇%に近い、米国は十七歳で文盲が十三%もいるのに比べると、日本の教育のレベルは確かに高いと言うことになります。その理由を外国の人々は教育の中央集権制に見ているようです。それも一面では真実です。しかし日本の教育も高校中退や登校拒否が増加していること、あるいは教員養成について様々な問題を抱えていることも事実です。

初任者研修の持つ意味 このような状態を改善するために実は初任研制度が出来たわけです。大学で

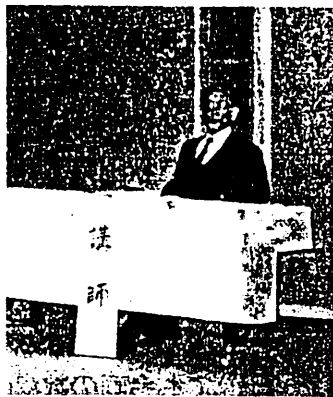
基礎教育を行い、将来教師として生きつづけるため一年間の心構えを確立する時期だと思えますし、私は実際初任者を前にそのように言っています。その後教師としての生涯の研修が始まることは言うまでもありません。

背抜け、気抜け、間抜け 日本の教育は「識字能力」では成功しました。しかし、心の教育ではどうだったのでしょうか。健康、学力、豊かな心……皆、私たちが子供に期待するものです。しかし、私たちは本当に知育を行っているでし



ようか。学力の構造を上図に示しましたが、真の知育は(1)分かるまで教える。(2)分かる喜びを味わわせる。(3)意欲をふくらませる。これを貫いていくのが「知育」であり、現実には、入試に通じるだけの知識を教えていて、博識にはなりませんが、思考力がこれに伴わず、知育は痴育に終わってしまいます。

徳育も要領よしを作る「得育」になっけていて、意志力や豊かな心情を養っているでしょうか。体育は「怠育」になっていませんか。



上寺氏

体位は向上しましたが、体力はどうでしょう。最近の子供はすぐ骨折します。骨が折れないようにしようとすれば教師の方の骨が折れます。

これらは、みな深いところでつながっているのです。体力ー思考力ー意志力ー心情は体力をつけようとすれば、意志力が必要ですし、意志力をもって事に当たろうとす

れば、体力が必要になります。同時に目的や方法を考えなければならぬ、目的がしっかりしているということ、価値観が明確でなければならぬと思えます。従って心情も豊かでない限りならせん。これがなくなつた状態を「背抜け」と言います。これを貫くものがないのを「間抜け」ともいいます。体力・心情・意志力・思考力、これが人間の基本で、これが揃って「気合い」が入るんです。これが抜けたのを「気抜け」といいます。「気合い」は、①体力から出る生氣②思考力から出る英氣③意志力から出る勇氣④心情から出る正氣からなっています。例えば、昔米を蒸気がじゅくりと米一粒一粒に浸透するようにしておいしいご飯を炊きました。そのとき出るのが「気」です。人間もそうでなければなりません。これは、わたしのいう4Hに通ずるものがあります。器量(head)、力量(hand)、度量(heart)、そしてそれを支える逞しさ(health)が必要なのです。

間抜けの時代 ところで、このような抜けた子供たちをだれが育てたのでしょうか。現在、時間の間が抜けました。先生と子供が接する時間がなくなりました。校舎の機械警備化、職員会議、そして教

師たち自身の接触の時間の少なさ等様々の理由で時間の間が抜けました。空間の間も抜けてしまいました。校舎に血が通わず、交通事情の悪化で子供の遊び場も無くなりました。教室ももつと血の通った空間に出来ないものでしょうか。仲間の間も抜けてしまいました。一人っ子が多くなりました。三人くらい兄弟が欲しいと思いますが、それが無理だったらせめて家族や親戚、近所同士の付き合いを大切にして欲しいと思います。また、腕白小僧を中心とした遊び仲間も



講 演 風 景

なくなりしました。ですから、昔はけんかをしても、程をわかまえてけがをする前に止めたものでしたが、今はそのわかまえてもなくなりけがをしたり、時には殺すまで喧嘩を続ける最悪の事態になります。集団の中に秩序とルール

がなくなり、人間の間が抜けてしまったわけです。もつという人間としての義理や人情や恥じらいがなくなつてしまつたわけです。これでは、人間ではありませんね。これからの教育を考える時、骨抜け、気抜け、間抜けを取り除くことから始めなければなりません。

教師の人間性、職業性、専門性。それでは、教師はどうあるべきなのか、私は次のように考えます。私は、教師の人間性と教職という職業性とが絡みあつて専門性が生まれてくるのだと思います。質問の仕方、子供の見方、これは職業性から生まれてきます。しかし私は私という人間、この人間性と職業性とが一緒になつて真の専門性が生まれてくるのです。定石というものがありませんが、しかしそれを生かすのは、その人間のもつている個性なんです。初任者は初任者の、ベテランはベテランの持ち味を生かして校長中心にみんなが一步一歩進んでいく。ルールは同じでも個性が違うから、やり方は違う、このことを私はプロ性と呼びたいと思います。教師は、四つの次元に生きています。一は、素地としての資質、特性、二は、指導の中で生きて働く資質、特性、三は、集団組織の中で生きて働く資質、特性、四は、モラルとモラルに生きることです。そして、二と三とは主として職業性から出

てくるもの、一と四とは、人間性から出てくるものです。この専門性は、教頭としての専門性、校長としての専門性と段々発展していきます。マニュアルという言葉があります。手引書と言う意味で使われるようですが、本来は手作りという意味です。手作りの授業で教師は一步一歩進んでいっていったきたいものです。

免許状の持つ重み。このようにして教師は次第に権威、つまり、裏付けのある専門性が付いてくるわけです。それだけではなく、時には児童生徒のために自らの生命を張らねばならないときもあります。教育道について、師道といいますが、同時に子供にも学習する道があります。a way of learning です。

the way of learning ではありません。つまり一人一人個性的な学び方があるわけです。教師道と同時に子供に学び方の道を教えないければなりません。時には、教師も人間です。子供から教わることもあるかも知れません。しかし、子供と一緒に進んで教育の道を歩み続けようとする、それを私は、「教育道」と呼びたいと思います。

教育道を歩み続けるためには、教師は教師としての権威を保たなければなりません。子供も実は、それを求めているのです。友達教師というのは、教師の幻想です。

子供には、友達になりっぱなしの先生は実は困るんです。勿論子供は必要です。子供の次元まで思いっきり降りて行って、さらに子供の次元から抜きん出て、子供を高いところからリードすることが大切なことです。これを私は水車方式と呼んでいます。このことで先生は大きく成長していくわけです。そのためには、先にも言いましたように、教師は気を抜かないことが大切です。

教師に必要なもの。この気をきとも読みますが、けとも読みます。このけが教師には大事なことです。先ず血の気です。情熱ですね。しやれ気も大切です。しやれ気があるというのは精神が若いということ。色気も大切です。エロスというのは、子供を愛し続けることなのです。これがどんなに辛いことかは先生方もよくご存じでしょう。食い気、これも大切なことです。先行の研究成果をどん欲なまでに食って自分を太らせていくことです。

情熱と若さと愛と研究を継続していく心、これが教師たちに今、最も求められているものなのではないでしょうか。指導法などはその過程で自然に産み出されてくるはずのものです。皆さんの御健闘をお祈りします。

(文責・県教育センター)

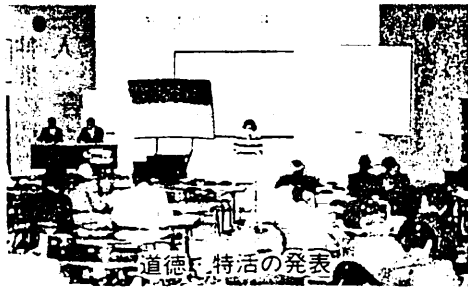
研究発表会に参加して

◇(こ)では、七百名の参加者から小・中・高◇
◇各一名の方々から感想をいただき掲載する。◇

特別活動展開の 新たな視点を学ぶ

男鹿市立椿小教頭 石川 久悦

本校は市教委の特活の研究指定を受け、本年度学級活動を中心に研究を公開した。現在は実践を総括し、来年度の課題設定に取り組んでいるところである。こうした時だけに今回の発表会に参加し、多くのことを学んだ。



その一つは、異学年交流ということである。これには、二本の報告があり、異年齢間の交流が人間形成において、いかに重要な活動であるかを改めて認識した。本校でも、登校・清掃活動は縦割りで行い、なべつこ遠足や七夕集会等の諸行事もそれらのグループを単位として実施している。しかし、桂城小の兄弟活動は、地域に依拠して組織され、活動しており、地域教育力を喚起し、

郷土学習にまで連関発展するものであり目を瞠(みは)つた。

その二は、子供の主体性を培うことである。長木小の実践は、子供とともに学校行事を創造することの素晴らしさと子供の成長を証明したものであったが、教師集団の発想のユニークさと細かな手だてに感服した。

また、金銭教育を通して変容する子供の姿を知り、家庭内暴力についての新しい知見を得ることができた。就中(なかならず)、暴力すらエネルギーとして受容し、忍耐強く待つことも一つの指導であるとの指摘は、強く胸に響いた。

個別化・個性化と国際化

秋田市立御野場中教諭 佐藤 栄司

新学習指導要領の個別化・個性化の流れと国際化の流れを、毎日の教育活動の流れの中にどう融合させていったらよいか。今回の発表会に、私なりにこのようなテーマをもつて参加させていただきました。そして、小坂中学校の吉田先生の「国際的視野を広げていこうとする生徒の育成」をテーマにした実践研究の発表から三つの示唆をいただきました。

一つは、「特別な授業をするのではなく、平常の教育課程の中で意識的に組み込むということ。もう一つは、自分が生まれ育った「郷土理解、自国文化の理解が基本」ということ

です。そして、最後に、全校レベルではもちろんですが、A男やB子という個のレベルにおいても「自立心、対応能力が芽生えてきた」ということとです。

教育にかかわる研究が子供を鍛え、子供を育てることをねらうのは当然



研究発表も国際化?

のことであります。しかし、その対象は、子供という言葉で総称されるようなものではなく、A男やB子といった一人一人の個でなければならぬと考えます。

そのような意味において、小坂中学校の実践は個別化・個性化と国際化のそれぞれの流れが支流になるのではなく、日常の教育実践という本流の中で大きなうねりとなっていることに感動いたしました。

教科の枠にとらわれない 普遍性のある研究

県立仁賀保高教諭 古内 一樹

二日目、私は高等学校の教科指導に関する分科会に参加しました。発表は、各教科に及ぶものでしたが、研究が必ずしも特定教科に限定され

るものではなく、むしろ教科の枠にとらわれない普遍性の感じられるものでした。たとえば、国語科のブックトークの手法は、他教科でも充分活用できるものでしたし、実際に社会科でブックトークを活用されている例も聞かせていただきました。アオサギを食物連鎖の頂点として捉えようという理科の研究などは、身近な自然現象・社会現象の中から教材開発を行った好例で、これなども、どんな教科にも応用できるものでした。さらに、国際理解についての社会科の研究は、当然他教科においても考慮されねばならない重要な問題でありました。ただ、問題そのものが非常に広範囲に及び不明確であるため、このことに対して明確な提言をすること自体至難の業のように思われました。一方、動物バイオを扱った授業実践報告は、たいへん興味



参加者へ傾ける発表

るため、このことに対して明確な提言をすること自体至難の業のように思われました。一方、動物バイオを扱った授業実践報告は、たいへん興味

深く感じられました。こうした研究は、ただ研究で終了させるのではなく、その成果を授業に生かし、還元してこそ、研究の成果が結実するものと確信いたします。自己研鑽(さん)の必要性を痛感させられた大会でした。

全国教育研究所連盟共同研究全国集会から

秋田県教育センターでは、全国教育研究所連盟第四回共同研究集会を一月二十三日から二十五日まで、秋田ビューホテルで開催した。

「個を生かす教育指導の実践的研究」をテーマとした今回の研究は新教育課程を支える精神の一つである「個性重視の原則」に視点をずえて、平成元年度から三か年の計画で取り組んでいるものである。

参加者は二百八十名、発表件数は二十九であった。研究発表は、教科・教科外・学校環境の三部会に分かれて行われ、当教育センターからは教科外部会で嵯峨裕子指導主事、学校環境部会で岡強三指導主事がそれぞれ代表として発表した。

大会プログラムは、東京都立教育研究所長奥田眞丈氏の「個性化教育と評価」と題する講演でしめくくられた。

今日の課題に対して実証的な解明に迫った意義のある研究発表大会であった。

なお、嵯峨、岡両指導主事の研究は、当教育センター発行「研究紀要」第二十二集に掲載し、各校に配布の予定である。

ここでは、この研究集会の講演で示された「個性化教育と評価」の問題について奥田氏の見解を紹介する。

個性化教育と評価について

都立教育研究所長 奥田眞丈



奥田眞丈氏

新学習指導要領が求めている評価の改善の方向は、単に学習面の評価だけに止まらない、広い視野に立った評価の工夫・開発である。そして、

そのような評価の在り方は、結局は「学力とは何か」という根本的な問題と深くかかわるものであることが分かる。すなわち、結果としての「知識・理解・技能」に偏りがちであった従来の学力観を見直し、学ぶ意欲及び方（探り方）及び結果の三つから成る構造の中で「学力」をとらえ過程における「興味・関心・意欲」等、情意的な側面を一層重視する評価の在り方が求められているということである。

それでは、子供の情意的な側面の

評価の観点はどうかあればよいのであろうか。子供たちの「興味・関心」は微妙な形で現れるのが普通である。「おやつ」という驚きから始まり、「これはどういうことなんだ」と疑いの段階にいる子供の姿がある。

「どうかしら」と困惑している姿もあれば、試してみたが「おかしいぞ」と矛盾を感じている姿もある。そのような驚き、疑い、迷い、矛盾などの諸相を素早く見抜いて評価していくことが評価の第一段階なのである。評価の第二段階は「探りの段階」の評価であり、「考え方」と「表現力」等がこの段階の評価の主要な観点になると思う。

これら二つの段階の集約された結果が知識・理解・技術となって表れてくるのであり、従って、その評価が最も大事にされなければならない性質のものであることはいうまでもない。しかし、それだけに頼るのではなく、そこに至るプロセスをこれまで以上に大事にしていくことが一人一人の個性を重視した教育に連なっていくのだという発想に基づいた評価の在り方が期待されているのである。

ここで「評価と評定」について一言触れておきたいと思う。実は、今回の指導要録改訂の作業を通して、両者の関連について誤解や混乱が大きいこと、特に五段階評定を優先して考えようという風潮があることに気付いたからである。

評価は大変広い概念をもつものであって、評定は評価した結果を点数化・記号化した、いわば、評価の一形式に他ならないものなのである。

ご承知のように、指導要録においても「評定」、「観点別評価」及び「所見」の三つの欄があつて、その三者が総合されたものが「評価」であることを示している。このことに改めて注意を喚起しておきたいと思う。評価を「トータルな人間としての評価」という観点から考えることは、発想転換の一つの大きなポイントになるだろうと思う。教科だけの評価に限定するのではなく、道徳や特活の評価も十分考慮してそれらを総合した評価の在り方を「教育課程の基準」は求めているのである。

その意味で「生活科の評価の在り方」が注目される場所である。体験重視、個性重視、内面性や連携の重視が生活科の特色であり、創造力、生活の仕方、生き方、社会性、体力、運動能力等々の諸能力が総合力となつて発揮されるのが生活科の学習である。総合力はまさに個性であり、その意味で生活科の評価の在り方は個性重視の評価の在り方を方向づけていくはずである。

個性化教育のねらいが個性の伸長にあることはいうまでもない。そのためには、教師は一人一人の児童生徒が何を、どう学んでいるかについて、観察を通して情報を豊かにしておくことが必要である。その視点の中に、新しい教育課程の基準が求めている理念を十分踏まえた観察の目を磨いていくことが、いま、教師に最も強く求められているのだと考えるのである。

(文責・県教育センター)

はじめに「以前は登校拒否の子供は病気でいえば重症として扱われていた。ところが今では、いつでも、だれにでも起こり得るものとしてとらえられ、登校拒否は一般的かつ増加の傾向にあり、大きな課題となっている。」

当教育センターへの来談者の相談内容もその三分の二は登校拒否に関してである。

様々なケースがあり、改善の方法を一言で言うのはむずかしいが共通して言えることは、親が学校の指導に対して疑問をもっている場合や逆に学校側がその家庭でのしつけの仕方に問題があると思っっているような場合は、なかなか改善の方向が見えてこないということがある。

そこで、まず相談の第一歩として「この子供をどう育てるか」という共通の認識を家庭と学校の両者に持ってもらうようにしている。当教育センターでは、これらの相談事例をもとに研究を進め、手引き書を作成したり、教育相談関係の研修講座に生かしたりするなど登校拒否の未然防止に努めている。次に、子供に対する相談の様子を紹介する。自然な形で子供の心の安定を図ろうとしていることに気づいてもらえれば幸いである。

8月×日

いつものように、十時にA君を玄関で迎える。「おはよう。」と言うと「おはようございます。」という声が返ってきた。「今日の挨拶は百点満点/」と言うと、A君は照れた表情でこちらを見た。

私の手を引っ張ってプレイルームへ急ぐ。プラモデルを取り出し、「先生、一緒に作ろう。」と、張り切っている様子。組立の指揮官はA君、部品を揃える兵隊さんが先生、一糸乱れず完成に向かっ

君はいまでは元気に学校へ通っている。

10月△日

Bさんの二度目の来談。学校にはまだ全然行けない。母親と一緒に「今日は、オセロをやろうかな。」と言う。第二遊戯室に行く。「私、弱いんだよ。でも黒の駒がいいわ。」と言って始める。テンポよく駒を置いていく。勝ちそうになって少し余裕が出てくる。そのうち部屋の中にあるものにも視線が広がる。「あれ、トランペットのケースで

びく普通の子供が...

相談室日記

吹奏楽部員だった

て夢中になる。途中、何度も試行錯誤をくりかえしながらも二時間を要してついに完成。「すごい/きれいだね。」「うん、先生すごいでしょ。」と大いに喜ぶ。この完成品を何度も手に取ってさわったり、近くから見たり離れて見たり「先生、これでいい?」と聞く。「よし、A君またいつか作ろう。」「うん、次はもっと大きいのにしたい。」一つのことに夢中になれなかつたA君にとってこの二時間は「自分を作る。」時間だったように思う。勉強や友達に不安をもっていったA

のよ」このあとは、友達のことを、先生のこと……話は止むことを知らない。もうオセロの盤に意識はない。「三階に行つて体を動かそうか。」と言ってみる。「ううん。お話しているだけでいい。楽器出して試してみたい?」マウスピースをつけて、ほおをふくらまして頑張る。音は出ない。「私ね、自分の楽器持っているよ。フルートなの。こんど持って来ようかな。」自分の大切な宝物について話はずむ。好きなことを介して動き始めようとしている。次第に目線が

上がってくる。「一緒にやってくれる?」来たときよりも目の輝きを増し、何度も手を振りながら帰っていく。

2月○日

「いやー、スキーにずうと行っていたので来られなかった。」と言って、C君はニコニコしながらやって来た。

彼は野球が好きで、プロの選手になりたいと常々言っている。今日もスポンジボールで野球をすることになった。

最初はいつも肩慣らしをするのである。「昨日、三百球ほど投げこんだので、ちょっと肩が痛いなあ。」と言いながら十球ほど投げこむ。

三振すると、なんでもないボールであったと思うが、「いやー、いまの球、ちょっと落ちたんでね。」などと言う。また、いい当たりをする、にんまりとして、「さすが、四番バッター原、すごい当たり、大ホームランです。さすがは原です。」と言って、大喜びをするのである。勝つと満面の笑み、負けると、「どうも、今日は調子悪かったなあ。」と悔しがるのである。元気なC君であるが、まだ学校へはまったく行っていない。

秋田県教育風土記六

算数・数学科の巻(その3) 安保 宏

(その三)

戦後算数・数学教育の変遷

一 生活教育の時代

昭和二十年終戦とともに、これまでの超国家主義教育は個人的人格完成をめざす教育へと大きく転換した。

(1) 昭和二十二年学習指導要領

終戦直後の算数教育は、これまで使用した教科書の中から占領政策に抵触する箇所を墨でぬりつぶして使用。それから二十一年にはパンフレットタイプ。二十二年には白表紙と製本は極めて粗末なものであったが、内容は戦前の水準を保つものであった。

それが二十二

年の新学制とともに数学教育の内容は小・中を通じて一年から二年のレベルダウンになり、占領軍の愚民政策などと批判された。

「教育の場は子供の環境であり、教育のいとなみは子供の生活を指導することである。」という生活指

導中心の単元学習が大巾に取り入れられた。数と計算では小数や分数の乗除は中学に移り、図形の求積と平面図形、比例関係も小学校で取り扱われなくなった。小学校では生活に密着した買ひものゴッコなどが取り扱われ、授業風景が一変した。

(2) 昭和二十六年学習指導要領

本格的に生活単元学習が取り上げられた。教科を内容教科と周辺教科(あるいは用具教科)と分類し、算数科は用具教科と位置づけ、生活上おこるさまざまな事象を解決する手段と考えられた。中学では論証はないのに、測量など生活に必要なものとして三角比や三平方の定理が入り、正の数、負の数は二年の内容になり、三年では税、手形、かわせ、利まわり、保険なども取り扱った。

現行の教科書からみても完全に二年位程度が下がっていた。

これが毎年全国各地で行われる数学教育大会で大きな批判の対象とされ、昭和三十二年秋田市で行われた全国大会では批判の声が頂

点に達した。その改革案は全国各地で〇〇プランとして発表され、東北六県でも改革等を作ることになった。各県でまとめたプランを秋田県に集め、まとめたものを東北プランとして、昭和三十三年の

東京大会で安保が発表した。

二、新しい算数、数学教育の路線

(1) 昭和三十三年の学習指導要領

この改訂では基礎学力の充実と科学技術教育の向上を基本方針の一つとした。具体的には、内容の精選と充実、系統性をもたせ、基本的なことを徹底させることを重点とした。この改正で数学的内容を、ほぼ戦前の水準に戻した。

(2) 昭和四十三年の学習指導要領

昭和三十二年十月、ソ連のスパイトニク一号は世界中に大きな衝撃を与えた。このころから欧米では数学教育の現代化運動が始まりそれがわが国にも伝わってくるようになった。昭和三十九年東京と京都で行われたS・M・S・G (School Mathematics Study Group) : : : アメリカの数学教育現代化の急進的研究団体の研究)は

わが国の数学教育の現代化を小・中・高を通じて一挙に全国的な規模で広めることになった。まさに数学教育の現代化のための改訂であった。

小学校から集合、関数、確率などの考え方が入り、子供も親も教師も大変な戸惑いの十年間がつづく。さらに創造的、発展的に処理する能力を育てることが要求され秋田県内でもそのための研究指定校が設けられるようになった。

(3) 昭和五十二年の学習指導要領

昭和四十九年の石油ショックは経済界に大きな変革をもたらした。一方、高校生の量的増加に伴う相対的学力低下。入試、つめこみ教育、偏差値、落ちこぼれなどの問題が起り、現代化の行き過ぎが批判されるようになった。前回強調された、集合、構造、関数、論理にかかわるいくつかの事項が消えていった。しかし、数学的な考え方の育成を基本とする創造的発展的な指導の路線は継承されることになった。

戦後四十五年間の数学教育の変遷を概観してきたが、指導要領がほぼ十年毎に改正されて今日に至っている。このこと自体、諸外国の数学教育学者から高い評価を受けている。中学生の数学学力の世界的な調査ではいつも日本がトップレベルにランクされていることは指導要領の改正がほぼ適切に行われていることを証明しているように思う。数学教育の健全な発展を心から祈るものである。

安保先生には、小さいスペースに算数・数学科における先人たちの歩みを要領よくまとめていただきました。次回からは理科の巻になります。ご期待ください。

平成三年度

県教育センター研修講座について

平成二年度に開設する秋田県教育センターの研修講座の編成に当たっては、秋田県教職員研修体系に基づくとともに、教育の今日的課題に対応した新設講座や、名称変更をした講座、さらには内容の見直しを図り、より充実した研修ができるよう配慮した。ここでは、新設講座及び名称を変更した情報処理教育講座についてお知らせする。

なお、研修講座の内容や実施期日等の詳細については、各学校等に送付する「平成三年度、研修講座案内」を御覧いただきたい。

新設講座

・教育評価

教育評価の意義と個性を生かす教育評価等、今日的課題に答える研修。

・表計算応用

情報を集計・加工する技法の習得と、新たな情報を生み出す能力を養うための研修。パソコン初級や初任者研修パソコン等の既受講者を対象とする。

・図形処理

図形情報の作成と取り扱い方法を習得し、学習指導における表現力向上のための研修。

・教育相談上級

学校教育相談の専門的知識・技能を習得するとともに、指導者としての資質の向上を図るための研修。

・教育相談事例研究

登校拒否に関して、諸状態の改善

と学校適応のための対応の在り方についての研修。

・中学校情報教育（社会）

情報教育に関する一般的な知識と技能を習得し、コンピュータの教育利用や社会科学習指導に活用するパソコン教材の作成方法についての研修。

・中学校進路指導学級担任

進路指導に関する基本的な事項と学級担任としての資質の向上や進路指導の充実のための研修。

・中学校生徒指導学級担任

教科指導・特別活動における生徒指導の果たす役割を明らかにし、学習意欲を高め、また、学級適応を図る学級経営の在り方についての研修。

・高等学校初任者

新任教員を対象とし、主に学級経営、特別活動、教科、パソコン実習、生徒指導・教育相談等の基礎理論と

その展開の方法についての研修。

名称変更講座

情報処理教育に関する講座では、研修の内容を具体化し、対象が明確になるよう名称を変更した。その中から特徴あるものは次のとおりである。

・小・中学校パソコン入門

・県立学校パソコン入門

共に初任者を除くパソコンの初心者を受けられる。旧パソコン初級に相当する。

・BASIC基礎

・BAS-IC応用

応用は、基礎の既受講者や同程度の技能を有する者が受けられ、旧パソコン中級に相当する。

・パソコンオペレーティングシステム

旧パソコン中級既受講者や同程度の技能を有する者が受けられ、旧上級に相当する。

・パソコン通信技術

旧パソコン中級既受講者、BAS-IC応用以上の既受講者や同程度の技能を有する者が受けられる。旧上級及び情報通信技術に相当する。

申込手続き

申込みされると、特別な場合を除き受講決定になります。決定通知は出しませんので、期日や会場をご確認の上受講してください。詳細は講座案内に示します。

第4回
夏季教育セミナー

期日 平成3年8月19日
会場 秋田市文化会館

第6回
秋田県教育研究発表会

期日 平成4年2月12～13日
会場 秋田県生涯学習センター

平成二年度

刊行物紹介

◆研究紀要 第二十二集

◆教育研究資料件名目録 第二十三集

◆生活科実践資料集

― 地域の特色を生かして ―

◆指導の手がかりをつかみにくい子供への指導事例集

◆国際理解を深める

― 学校教育の在り方 ―

◆秋田県郷土教育資料 国語編

― 秋田の文学 ―

◆毎日の生活に生かす学校教育相談

編集後記

まだ寒き国と思ふにふきのとうの茎だちながしふるさとの道

路傍のバツケにふと立ち止まってあわたしく過ぎた今年度を思い、来年度に新たな闘志を燃や

す今日このごろである。